



H21. 11. 6. №1266
静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行＝指導部漁政課
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

長、地区運営委員長及び事務局)が参加しました。

会議は、まず主催者の服部全漁連会長より、JFグループは4本柱の主要事項に取り組むとして、「①組織と事業再編 ②経営改革 ③事業改革 ④漁業と漁村への貢献」を挙げた挨拶が行われた後、櫻庭全漁連副会長から、2014年まで5年間のJFグループにおける組織・経営・事業戦略への取り組みについて具体的な説明が行われました。

続いて、JF明石浦漁協(戎本組合長)並びにJF山口(田中組合長)より、「組織・経営の安定化に努力する」また、「地域に貢献し漁協組織として社会的責任を果たしたい」との意見表明がなされました。

さらに、新運動方針の決議を宇都JF女性連絡協議会長が、その後「諸改革の断行と水産政策の確立に関する特別決議」を大井全漁連副会長から提起され、それぞれ会場から賛成の意を表した拍手多数で決議され閉会しました。

4. 2008年漁業センサス 海面漁業経営体5年間で199減少(調査結果その①)

静岡県では、2008年度(第12次)漁業センサスの結果(速報)を、以下のとおり発表しましたので、2回に分けてお知らせします。

漁業センサスは、漁業の生産構造・就業構造及び漁村、流通・加工業等の漁業の背景の実態を把握することを目的に、5年ごとに実施する基幹統計で、農水省が各種水産施策のための基礎的データを提供する調査です。海面漁業調査における結果の概要は以下のとおり。

<●漁業経営体>

2,956経営体で、前回の調査(2003年)に比べ199経営体(6.3%)減少しました。経営組織別にみると、個人経営体は2,801経営体(構成比95%)、団体経営体は155経営体(構成比5%)で、前回に比べ6.4%減、5.5%減となりました。市町別では、浜松市の701経営体が最も多く、沼津市259経営体・下田市186経営体・南伊豆町183経営体・西伊豆町175経営体の順でした。

また、漁業種類でみると、釣り(構成比26.4%)が多く、続いて採貝藻(同20.4%)・刺し網(同15.5%)・船曳網(同11.1%)が続いています。

漁業経営体における漁獲物の出荷先をみると、「JFの市場または荷捌き所」が2,227経営体で最も多く、次いで「JF以外の卸売市場」が353経営体、「自家販売」が176経営体となっています。漁獲物・収穫物の販売金額では、「100万円未満」が1,017経営体で最も多く、次いで「100万円～300万円未満」が673経営体、「300万円～500万円未満」が508経営体となっています。

5. 本会人事異動のお知らせ(カッコ内は旧役職)

本会では次のとおり職員の人事異動(定年に伴う再雇用含む)を発令しました。

◇退職 10月31日付▽堀内敏明(温水利用研究センター所長)

◇異動 11月1日付▽温水利用研究センター所長心得 稲葉義之(同センター所長代理)

◇嘱託採用 11月1日付▽温水利用研究センター技術顧問 堀内敏明

1. 平成21年度 第5回天草共販入札会を開催

本会では、10月21日伊豆漁協本所にて、天草共販の第5回入札会を開催しました。

5回までの取扱累計は数量101,511kg、本数4,079本(前年比20,148kg、820本増)、取扱金額93,476,152円(同25,235,233円増)、平均単価9,209円(同821円増)となりました。なお、今回の入札結果は次のとおりです。

▽入札数量: 39,137kg (1,570本)

▽取扱金額: 35,861,514円

▽平均単価: 9,163円(10kg当たり)

▽最高入札額: 17,800円(10kg当たり<生産地=見高・銘柄=まくさ粗改良>)

2. 両陛下ご臨席の中 中央大会を開催

—第29回全国豊かな海づくり大会—

「まもり育てる 豊かな海は みんなの未来」をテーマに、10月31日東京海洋大学(品川キャンパス)において、第29回全国豊かな海づくり大会が開催され、全国から600人の水産関係者が出席しました。来年30回を迎える今回は、過去の地方で実施した大会を振り返り、つくり育てる栽培漁業と環境保全の総括をする“中央大会”として位置づけたものです。来年度からは海なし県も含め、引き続き地方大会を実施していく予定です。

なお、今回は例年と違い歓迎行事や放流行事が無く、会場の収容規模から参加人数にも制限があり、本県から8人の参加(功績団体表彰関係者含む)となりました。

大会は両陛下ご臨席のもと、主催者の大会推進委員会を代表して、横路衆議院議長から「自然を一体として守り育てていく契機となるよう祈念する」との挨拶に続いて、功績者団体表彰に移り、最高位の大会会長賞(資源管理漁業部門)を、本県の由比港漁協・大井川漁協が受賞しました。(既報N°1265参照)

さらに、両陛下より神奈川県・千葉県・三宅島の漁業者に放流稚貝のお手渡しがなされた後、大会の決議として、服部大会推進委員会会長が「決意新たに豊かな水産資源の回復や海の再生に努力する」と決議文を朗読し、会場全員の拍手で承認されました。

なお、22年は、岐阜県(6月)での開催が決定しています。

3. 組織の強みを生かした、JFビジョンを明らかに!

—JF全国代表者集会—

JF全漁連では、10月30日グランドプリンスホテル赤坂において、JF全国代表者集会を開催しました。この会議は、3年から4年に一度、JFグループ全体の運動方針を見直し、時流に応じた組織経営や事業戦略を決定し事業構築を明らかにするものです。

当日の参集者は全国の漁協代表者550人が出席し、本県からは10名(漁連・信漁連両会

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう